

連珠っておもしろい

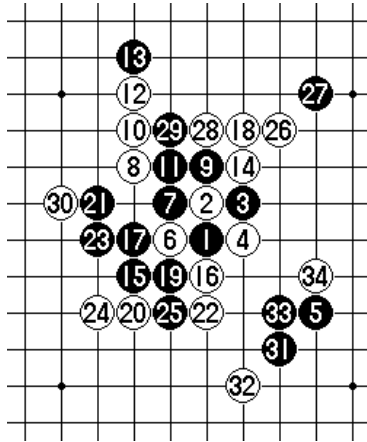
九段 河村典彦

● 第68回 ●

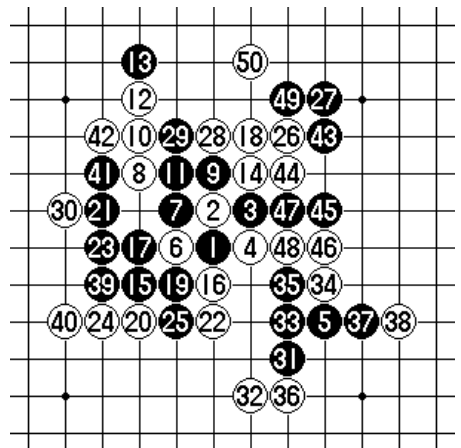
■ 日本の夏

今年はずっと日本に日本の夏を経験した。とにかく暑い！しかも蒸し暑い！ちよっと歩いただけで汗がにじんでくる。欧州では蒸し暑くなく乾燥しており、全く汗をかかなかったのが、突然の出来事に毛穴が驚いている。また、震災直後の夏は冷房をずいぶん我慢したと聞いているが、今年7月末からエアコン全開である。とは言っても我が家はそんなにガンガンかけたりしない。何と言っても電気代が気になるのである。その分出張先ではエアコンかけっぱなしで夜を過ごすという贅沢をさせてもらっている。こんな暑い日本の夏をアンツに経験させたらきつと死ぬだろうな・・・といつも

思う。欧州の涼しさを満喫している人たちにこの暑さをぜひ伝えたい。日本はもう熱帯地域なのである。前回、花月切り違いの勝ち方をやったが、実はその中の別の変化がこれがまた難解であることがわかったので、今回はそれを調べてみよう。



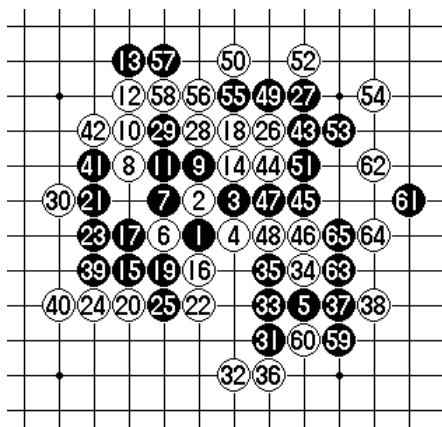
前回の後のおさらいになるが、白30までの定型に、黒31から黒勝ちが見つかつたという話である。白34で焦点止めを前回解説したが、実はこの34の方が複雑で難しい。順を追って解説していこう。



黒35と引くのがまず第一歩。これに対して上止めでは簡単に勝ちが出る。続いて黒37。これも左止めでは簡単なので右から止める。ここで黒39、41は効かしなので打っておこう。何かの拍子に白に四迫いができるので、打って損のない手は打っておいた方が間違いが少ない。

さて、力を蓄えた後は、一転して黒43、45と上辺に向かう。この筋は昔からあるのだが、黒35で剣先ができたのでより効果的だ。こ

れには下から止めてノリ手にするのが強い。これを中止めは、容易に黒が勝ってしまう。とは言えちよっと難しいので確認を。黒49が当然ながらうまいミセ手で、白の止めを2か所に限定している。白50と上から止めるのが最強でここからの勝ちがかなり複雑だ。



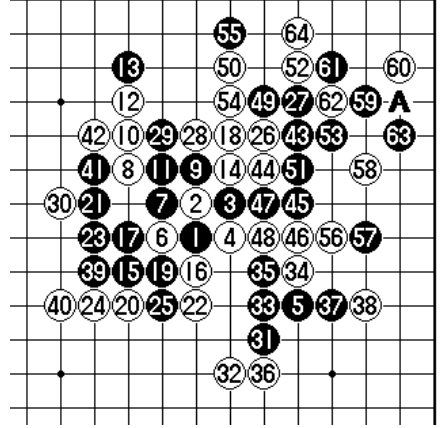
黒51、53とミセ手で攻めるのが唯一の攻撃手段で、対して白もいろいろな止め方がある。結局シンプルに白54と焦点に止めるのが

最強防である。実戦ならここからの勝ちは見つけられないだろうが、研究なら見つけられる。黒55と白の四ノビ筋を消してから、黒59の決勝点に打つのが勝着。このコンビネーションは難しいだろう。白60ではいろいろ止め方があるが、いずれも先手にはならない。ここまで打っておいてから黒61！が最後の決め手である。横の筋が長連になつてしまうので非常に打ちにくい。もちろん変な四ノビをしてしまうと勝てなくなる。黒65まできれいなノリ切り勝ちとなる。白も四ノビの抵抗ができない。

る。しかしこれも、狭い右上で勝ちが出る。

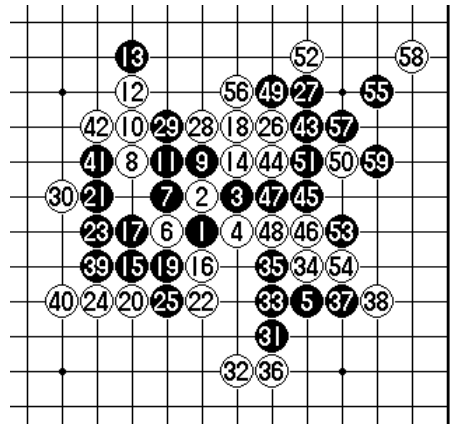
黒61の「ミセ手」が「ミセ手は勝ちを生む」という格言通りの妙手である。焦点止めなら黒63と引いて以下四追いである。白62でAなら、今度は黒64と引いて以下四追いである。

さあ、あと少しだ。白50の防ぎが負けず劣らず強く、第三の強防である。ただ、ここではこれ以外の防ぎがないので、この防ぎに対して勝ちを出せば、自ずと全部解決することになる。



白50に対しては、黒51と一旦切っておいて、黒53と剣先を押さえて白の様子をうかがうのがいいだろう。この手は上下をつなぐ一手で重要地点である。

白54と下辺を気にしての防ぎなら、黒55から上辺で勝ちが出る。黒53と白54の交換は、黒59の時に白53に伸びて防ぐ手をなくした効果になつている。なお、蛇足ながら、黒57で59と両ミセにすると、白に四で57の点を四々にされてしまうので要注意。



最後に、白は54と精一杯頑張る手もあるが、それに対してはやはり黒55が決め手になる。白56で何らかの防ぎが必要なので、悠々黒57に打てば勝っている。

2回にわたって解説したこの局面、実は黒17から追い勝ちになつている。最長で65手までかかりそうだが、こんなのは解くのに無限の時間が必要だろう。でも、パソコンで解かれてしまふ日も近いと思うと複雑な気持ちになる。パソコンが進化を早めるのだろうか。

